

2026年3月期 第3四半期 決算概要

2026年2月13日



PUNCH INDUSTRY

パンチ工業株式会社

(証券コード:6165 東証スタンダード)



PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

■ 2026年3月期 3Q決算概要

2026年3月期 3Q決算ハイライト

日本の受注状況は低迷中だが、中国を主とした海外事業が好調に推移し、増収増益

売上	連結	連結売上高は、前年同期比103.9%、11億円増の314億円
	日本	前年同期比95.1%の82億円 特に自動車関連の落ち込みの影響大
	中国	前年同期比107.9%の186億円 自動車関連の受注が増加しており増収
	東南アジア	前年同期比109.7%の15億円 インドネシア、マレーシア、ベトナムは好調、インドが不調
	欧米他	前年同期比103.4%の30億円 欧州が好調に推移
利益		営業利益は、前年同期比138.1%の1,619百万円 経常利益は、前年同期比149.9%の1,790百万円 親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期比101.8%の635百万円
ネット資金		配当及び賞与支給等により、期首から233百万円減少

■ 2026年3月期3Q 決算ハイライト

- 売上面では、日本の受注状況は低迷中だが、中国を主とした海外事業が好調に推移し、増収
- 利益面では、海外事業での増収効果が貢献し、連結で増益

損益計算書サマリー(3Q比較)

(単位:百万円)

	2025年3月期		2026年3月期		前年同期差	前年同期比
売上高		30,282		31,460	1,178	103.9%
営業利益	3.9%	1,172	5.1%	1,619	446	138.1%
経常利益	3.9%	1,194	5.7%	1,790	596	149.9%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	2.1%	624	2.0%	635	11	101.8%

【為替レート(実績)】 1人民元=20.60円/1USドル=148.82円

 PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

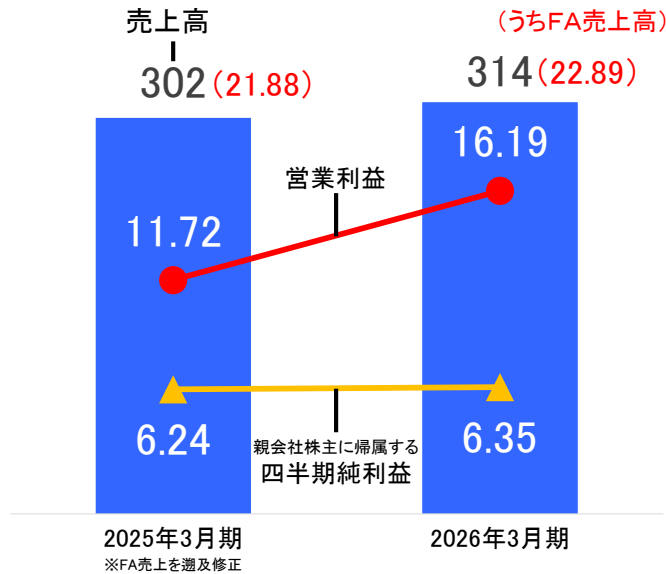
© PUNCH INDUSTRY

2

- 決算数値の概要
- 売上高は314億60百万円で前年同期比103.9%、11億78百万円の増収
- 営業利益は16億19百万円、経常利益は17億90百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は6億35百万円
- 為替レート(実績)1人民元=20.60円/1USドル=148.82円

売上高と利益(3Q比較)

(単位:億円)



【前年同期比較】

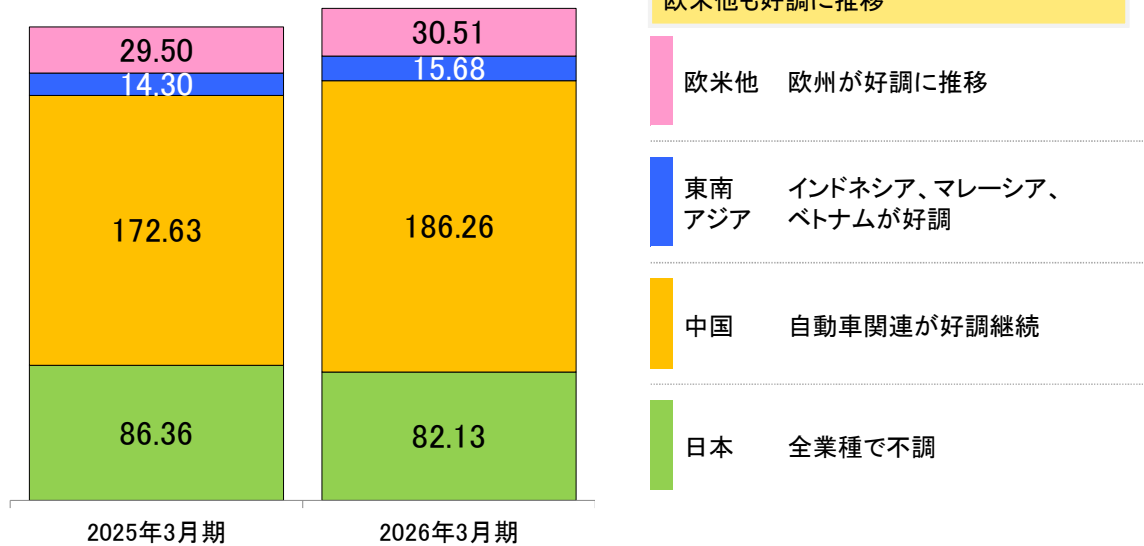
売上高	11 億 78 百万円	増収
営業利益	4 億 46 百万円	増益
純利益	11 百万円	増益

※親会社株主に帰属する(四半期・中間・当期)純利益

- 2025年3月期と2026年3月期の売上高・利益比較(3Q)
- 前年同期の数値と比較して、増収増益
- FA売上は日本では減収となりましたが、中国事業での増収幅が貢献し、連結上では、前年同期比105%
- 四半期ベースの推移は、資料末尾の「参考資料」へ掲載

地域別売上高(3Q比較)

(単位:億円)



PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

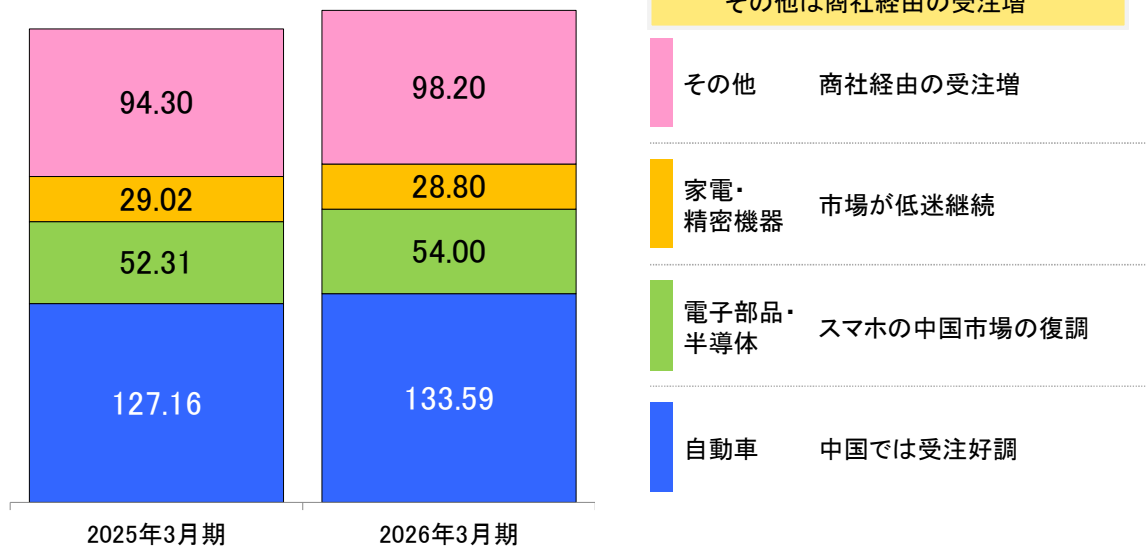
© PUNCH INDUSTRY

4

- 2025年3月期と2026年3月期の地域別売上高比較(3Q)
- 日本が前年同期を下回った一方、中国・東南アジア・欧米他が前年同期を上回る実績
- 四半期ベースの推移は、資料末尾の「参考資料」へ掲載

業種別売上高(3Q比較)

(単位:億円)



PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

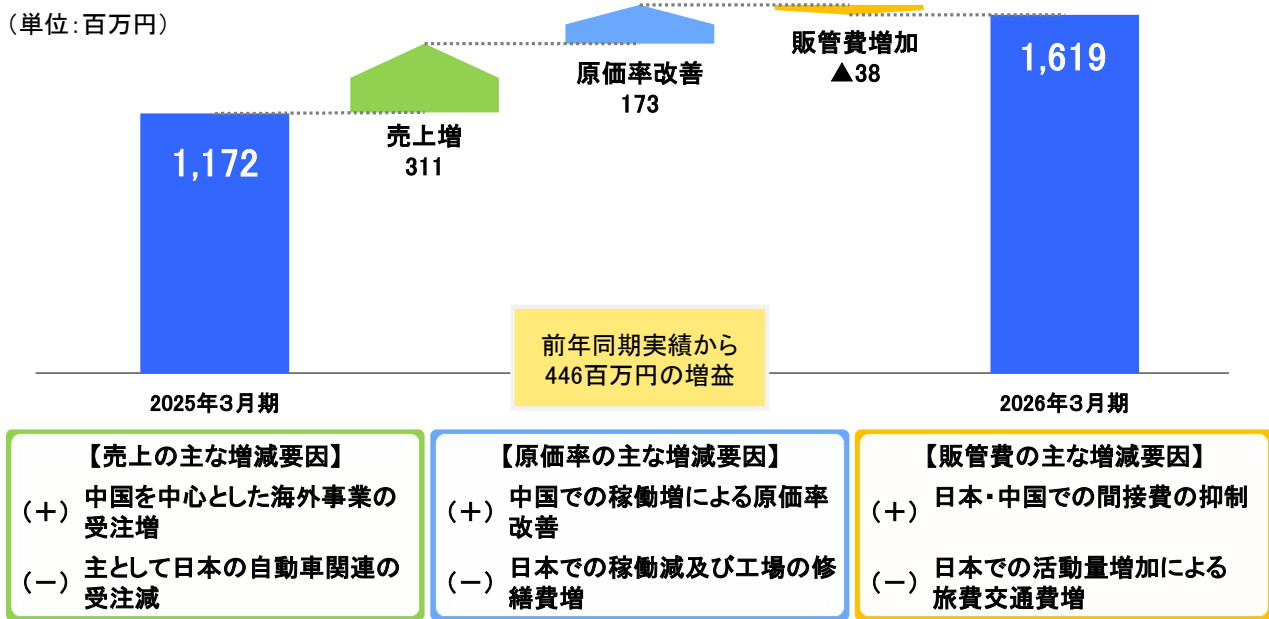
© PUNCH INDUSTRY

5

- 2025年3月期と2026年3月期の業種別売上高比較(3Q)
- 自動車関連は、中国での新車プロジェクト等の受注が上期にあり、好調に推移
- 電子部品・半導体関連は、中国のスマホ向け市場が復調気配
- 家電・精密機器関連は市場全体が低迷しており、小幅な減収
- その他関連は商社経由の受注増
- 四半期ベースの推移は、資料末尾の「参考資料」へ掲載

営業利益増減(3Q比較)

(単位:百万円)



PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

© PUNCH INDUSTRY

6

■ 2025年3月期と2026年3月期の営業利益の増減分析(3Q)

- 前年同期の営業利益11億72百万円に対して、売上増による3億11百万円の増益効果

原価率は、日本での稼働が良化していないこともあったが、中国での受注好調に伴う稼働改善があり、1億73百万円の増益影響

販管費は、間接費抑制に努めているが、日本での活動量増加による旅費交通費等が増加し、38百万円の減益影響

- 結果、2026年3月期3Qの営業利益は、前年同期から4億46百万円の増益となり、16億19百万円を計上

貸借対照表サマリー

(単位:百万円)

	2025年3月期末	2026年3月期 第3四半期末	比較増減
総資産	32,970	32,843	▲ 126
総負債	10,931	11,338	406
うち有利子負債	3,101	2,995	▲ 106
純資産	22,038	21,504	▲ 533
ネット資金	3,393	3,050	▲ 343
自己資本比率	66.7%	65.5%	▲ 1.2pt

	2025年3月期 第3四半期	2026年3月期 第3四半期	比較増減
設備投資額(無形固定資産含む)	744	876	132
減価償却費(無形固定資産含む)	883	865	▲ 18

- 貸借対照表サマリー
- 総資産は主として商品及び製品の減少等により、1億26百万円の減少
- 総負債は主として支払手形及び買掛金の増加等により、4億06百万円の増加
- 純資産は主として為替換算調整勘定の減少等により、5億33百万円の減少
- 上記の結果、自己資本比率は前期末から1.2ポイント減少し、65.5%
- 設備投資額は、省力化・自動化投資も実施しており、前年同期から1億32百万円増加の8億76百万円

子会社アスク(FA機器の設計・製作)特損状況

通期予想は、売上高・営業利益・経常利益を上方修正する一方、アスクの減損影響を踏まえ、当期純利益は据え置き



のれん減損を2026年3月期3Qに計上

項目	金額	影響
のれん減損	331百万円	連結PL
株式評価損	411百万円	単体PLのみ

●のれん減損の背景・原因

- 新製品の受注立ち上がり遅れ等により、収益計画が未達
- 将来キャッシュフローを見直した結果、回収可能額が簿価を下回ると判断

●今後のアスクの方針

- 事業は継続・育成
- 展示会・商社連携・既存顧客深耕を継続
- 確かな需要を捉え、持続的成長につながる営業体制を整備
- FA事業部との連携を深めて成長スピードを高める

●今後のM&Aの方針

- 事業計画の複数シナリオ化
- 取得価額算定の厳格化
- 取締役会での検証プロセス強化

■ 子会社アスクの特損状況

- 当社は2026年3月期3Qにおいて、アスクに関するのれん減損331百万円を連結で、株式評価損411百万円を単体で計上

- 背景としては、新製品の受注立ち上がりが想定より緩やかに推移し、収益性の改善にも時間を要していることから、将来キャッシュフローを保守的に見直した結果、回収可能額が簿価を下回ると判断

- アスクについては、撤退や売却は想定しておらず、育成継続

- 確かな需要を捉え、持続的成長につながる営業体制を整備しつつ、「Vision60」に向けてはFA事業部との連携を深めて成長スピードを高める

- 本件を踏まえ、M&Aにおける事業計画の検証や取得価額算定プロセスを一層厳格化

- なお、連結業績については海外事業が好調に推移しており、通期業績予想は売上高・営業利益・経常利益を上方修正
※親会社株主に帰属する当期純利益は据え置き

2026年3月期 通期連結業績の予想

(単位:百万円)

	2025年3月期 (実績)		2026年3月期 連結累計期間					
			前回予想		修正予想		前期差 (前期比)	前回予想差 (前回予想比)
売上高	40,822		41,700		41,850		1,027 (102.5%)	150 (100.4%)
営業利益	4.1%	1,685	3.8%	1,590	4.1%	1,700	14 (100.9%)	110 (106.9%)
経常利益	4.0%	1,613	3.9%	1,630	4.4%	1,860	246 (115.3%)	230 (114.1%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	2.1%	868	1.4%	570	1.4%	570	▲ 298 (65.6%)	0 (100.0%)
自己資本利益率(ROE)	5.4%		3.4%		3.4%		▲ 2.0pt	0.0pt
投下資本利益率(ROIC)	6.0%		5.5%		5.9%		▲ 0.1pt	0.4pt

2026年3月期
配当予想

18円54銭(予定) = 中間 9円13銭 + 期末 9円41銭

【為替レート】 1人民元=20円93銭/1USドル=150円43銭 【設備投資】 設備投資額:14億円 減価償却費:11億円

■ 2026年3月期の通期連結業績の予想

- 通期の連結業績予想は、3Q累計期間において国内事業での営業及び生産体制の再構築の遅れ等があったものの、海外事業が好調に推移し、特に中国事業の自動車関連の受注が、1Qから引き続き、好調に推移していることもあり、売上高及び営業利益並びに経常利益を上方修正

■ 想定為替レートを修正

1人民元=20円66銭から20円93銭

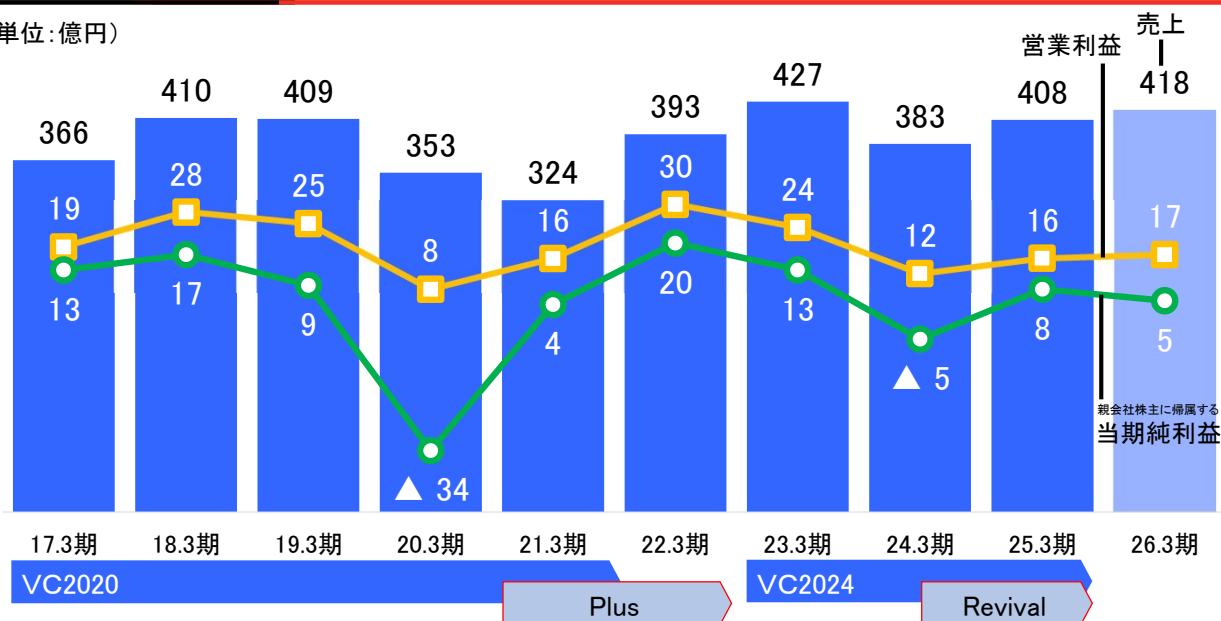
1USドル=148円84銭から150円43銭

- 配当予想は、親会社株主に帰属する当期純利益の業績予想を据え置いたことから、前回予想の年間18円54銭に変更なし

- 設備投資計画は約14億円、減価償却費は約11億円を見込んでおり、変更なし

経営数値の推移

(単位:億円)



PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

© PUNCH INDUSTRY

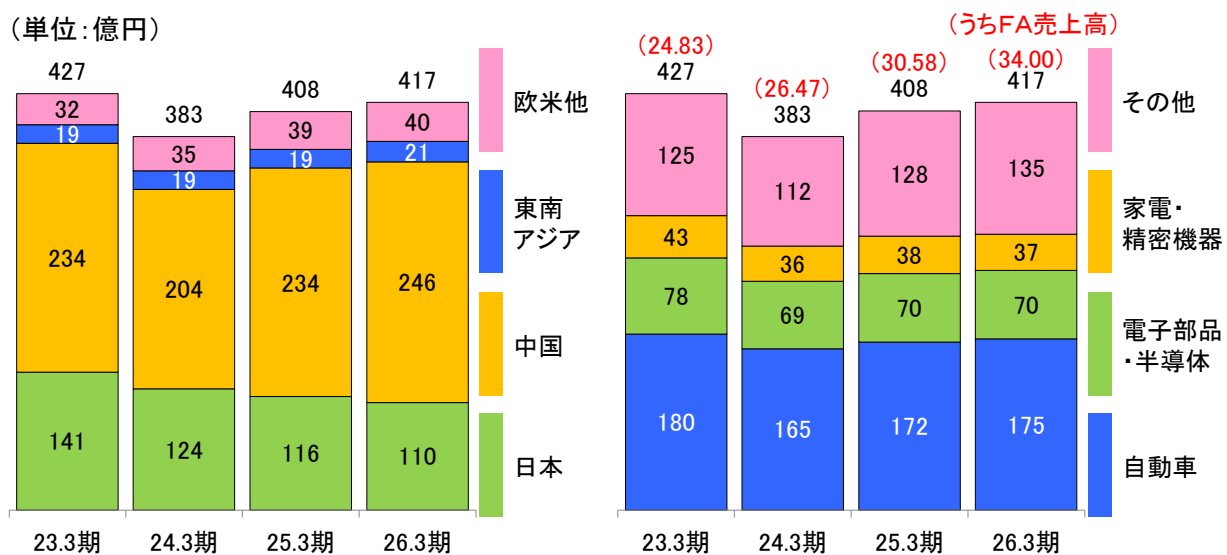
10

- 直近の中期経営計画期間中の売上・営業利益・当期純利益の推移をグラフ化
- 大きな特別損失を計上した2020年3月期からは回復傾向にあるものの、日本事業の立て直しが急務だと認識しており、各種の取組み強化や改革のスピードアップを目指す
- 2026年4月から開始する3カ年の次期中期経営計画「VC28」の公表時期変更
2026年3月⇒2026年5月
※施策確度や数値蓋然性を確保するため

地域別・業種別売上(FA含む)の推移

日本は営業人員不足による受注停滞中だが、海外は好調を維持しており連結としては増収予測

(単位:億円)



PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

© PUNCH INDUSTRY

11

■ 2026年3月期の地域別・業種別売上の内訳(FA売上含む)

参考資料

 PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

■ 各資料につきましては、当社Webサイトよりご覧ください。

■ 中期経営計画及び長期ビジョン「Vision60」

➤ <https://www.punch.co.jp/ir/library/#midterm>

■ 決算短信

➤ <https://www.punch.co.jp/ir/library/#summary>

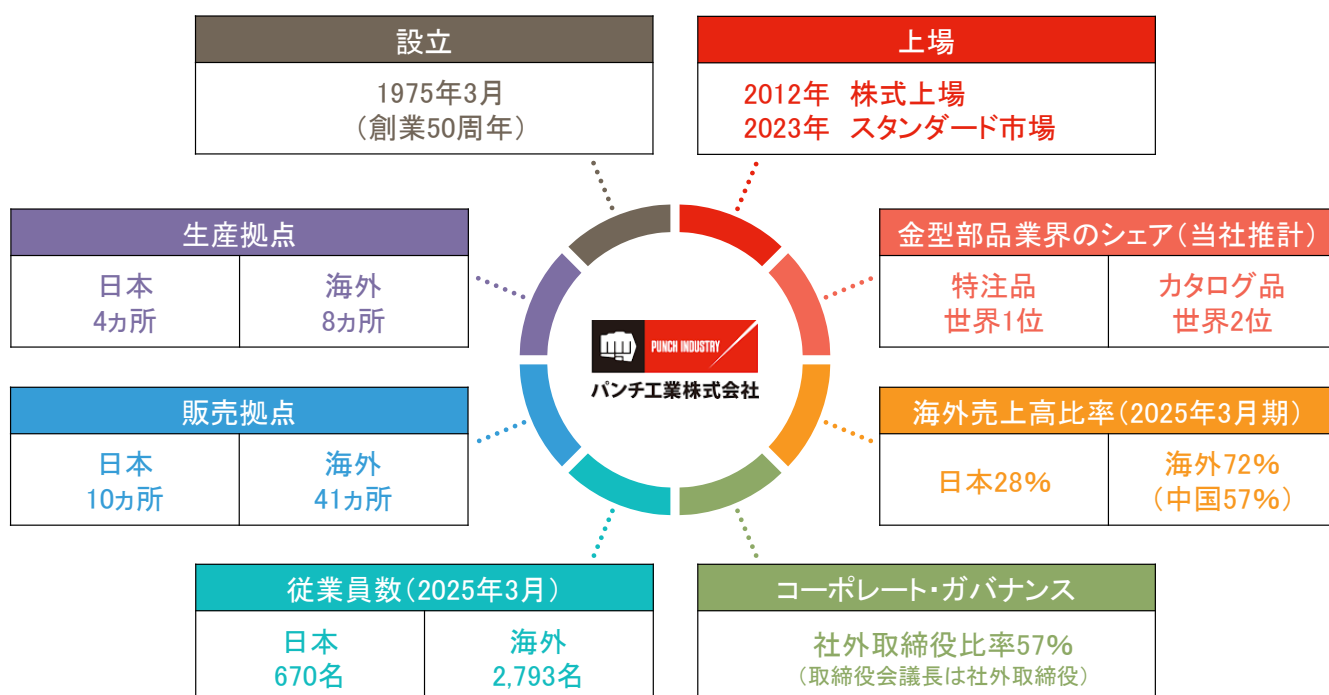
■ 決算説明資料

➤ <https://www.punch.co.jp/ir/library/#presentation>

■ IRニュース一覧

➤ <https://www.punch.co.jp/news/#ir>

ひと目でわかるパンチグループ



マネジメント体制

代表取締役社長プロフィール

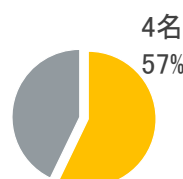
氏名及び生年月日 職歴

	森久保 哲司 (1977年1月22日)	2003年5月	当社入社
		2005年2月	盤起工業(大連)有限公司
		2012年11月	バリュー・クリエーション推進室長
		2013年4月	経営企画室長
		2015年4月	PUNCH INDUSTRY MALAYSIA SDN. BHD.
		2016年5月	執行役員
		2018年6月	取締役 上席執行役員 経営戦略統括
		2019年4月	最高戦略責任者 グループ事業統括
		2019年6月	代表取締役(現任) 副社長執行役員
		2019年11月	社長執行役員 最高経営責任者 グループ経営統括(現任)

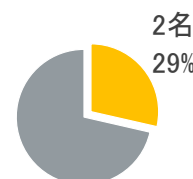
取締役体制

取締役	代表取締役社長執行役員 最高経営責任者(CEO)	森久保 哲司
	取締役上席執行役員 最高執行責任者(COO)	高梨 晃
	社外取締役	高辻 成彦
	社外取締役 取締役会議長	大里 真理子
取締役 (監査等委員)	取締役(監査等委員)	河野 稔
	社外取締役(監査等委員)	鈴木 智雄
	社外取締役(監査等委員)	田畑 千絵

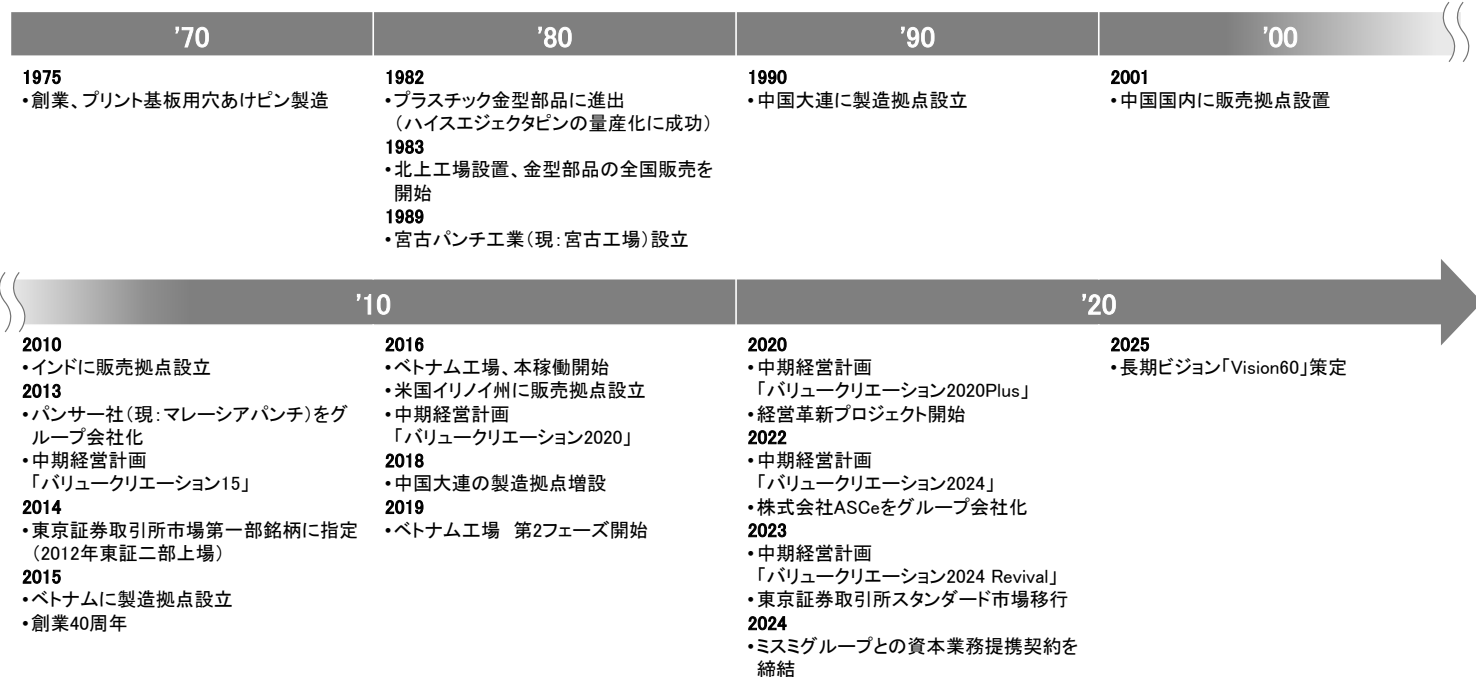
社外取締役比率



女性取締役比率



パンチグループ沿革



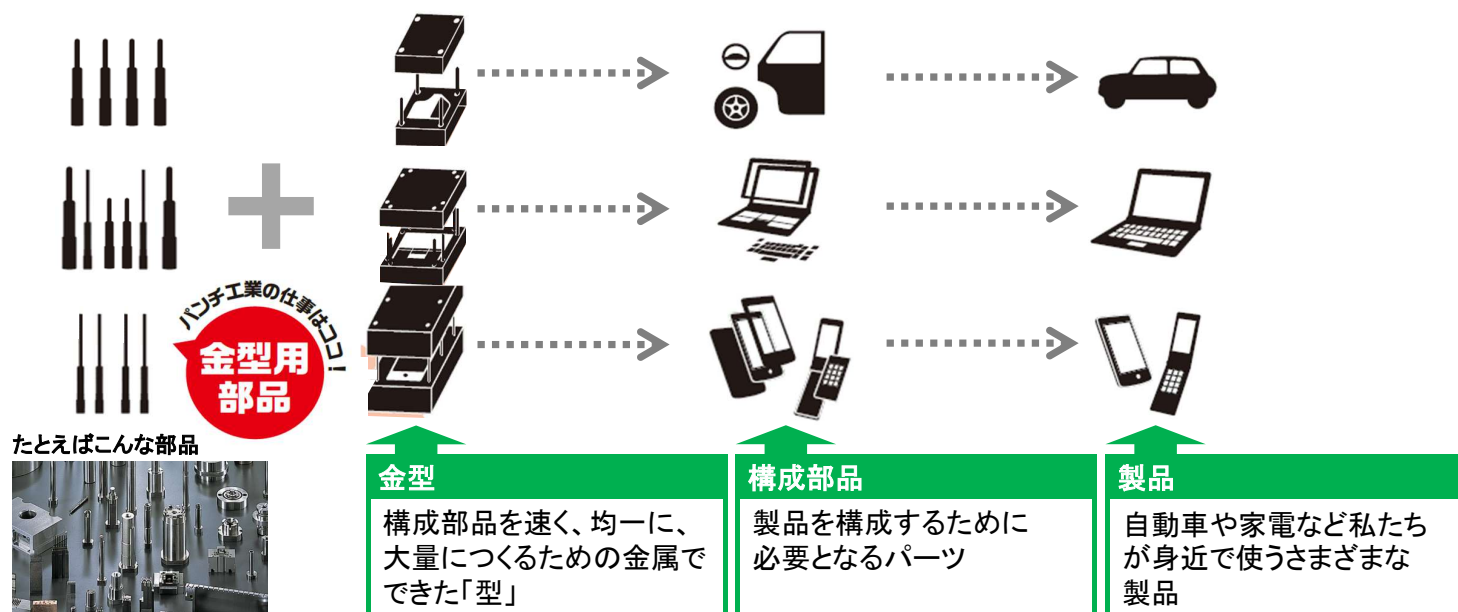
PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

© PUNCH INDUSTRY

15

事業内容

金型を構成するために、なくてはならない多種多様な精密金型部品の製造・販売
皆様の豊かな生活を支える「縁の下の力持ち」



PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

© PUNCH INDUSTRY

16

パンチグループの主要製品

射出成型金型等のプラスチック金型部品とプレス加工金型等のプレス金型部品
ものづくりの上流から下流までお取引

プラスチック金型部品

プラスチック金型は、スマートフォンやデジタルカメラの外装など、多くのプラスチック製品の製造に用いられています。加熱溶融したプラスチック樹脂を、射出成形機に実装された金型に注入し、冷却、固化することにより製品が作られます。パンチグループでは、この金型を構成する部品を製造・販売しています。



主要な製品

エジェクタピン

射出成形された成形品を金型そのものから離し、突き出すための部品(押し出しピン)です。



主要な製品

コアピン

製品部を成形するのに使用し、コアピンの形が転写されます。製品部の貫通させた部分を成形したり、製品部に彫刻をします。

プレス金型部品

プレス機(上下運動する機械)に金型を装着し、上下に分かれた金型の間に材料となる金属の鋼板を入れ、プレス機を稼働することにより、金型で型どられた製品ができ上がります。パンチグループでは、この金型を構成する部品を製造・販売しています。



主要な製品

パンチ

プレス金型に組込まれる代表的な部品で、金属板に穴をあけたり、形状を転写するための部品です。当社の社名はこのパンチに由来しています。



主要な製品

ホルダーガイドポスト関連

上型と下型の関係を正しく保つために使用する部品です。

パンチグループの強みとネットワーク

汎用性の高いカタログ品を豊富にラインアップ & カスタムニーズにも対応する特注品
世界の「ものづくり」を支える

パンチグループの強み

お客様に高い満足度を提供

日本・中国

特注金型部品シェア1位 ※当社推計

カタログ品

汎用性の高い標準製品を豊富にラインアップ



タイムリーで的確なソリューション

一気通貫の生産体制
2,000台の設備で幅広い対応力

お客様密着型の営業体制
きめ細かな対応・提案力

特注品

カスタムニーズにも柔軟に対応

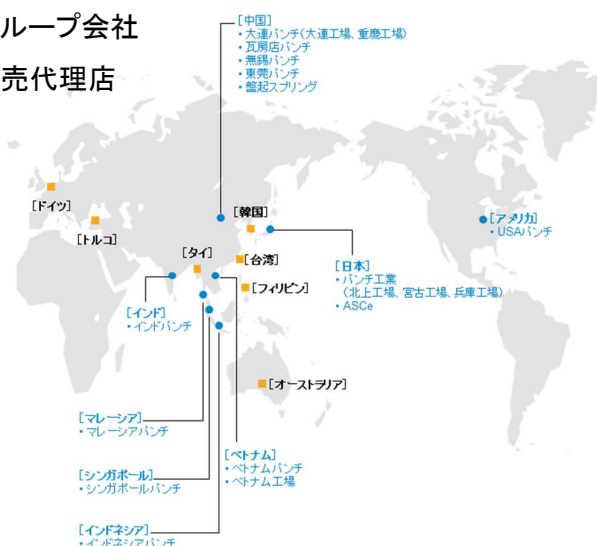


高い技術力
創業以来培ったノウハウと
たゆまぬ研究開発

パンチグループのネットワーク

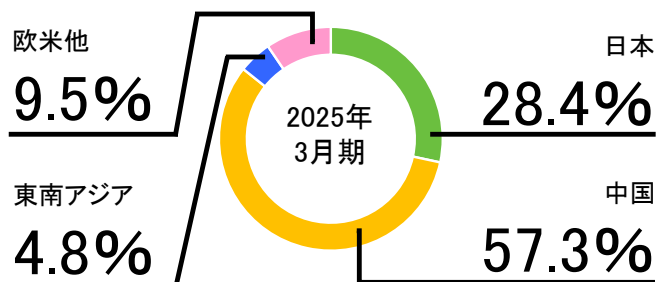
グループ会社

販売代理店

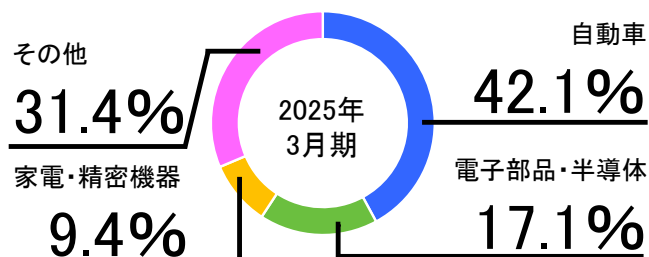


地域別・業種別売上高構成比

地域別売上高構成比

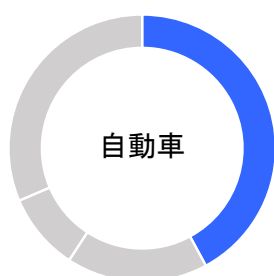


業種別売上高構成比



業種別の主要顧客

日本での主な競合先: 大手総合機械商社、地場金型加工メーカーなど
中国での主な競合先: 中華系機械商社、中華系機械メーカーなど



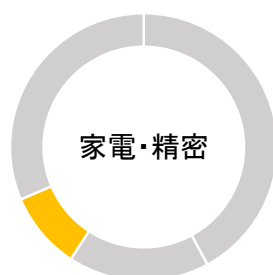
主要顧客

自動車メーカー
及びTier1,2
金型メーカー



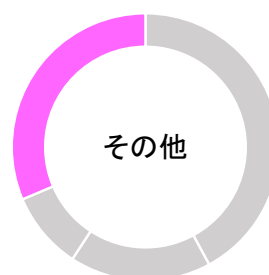
主要顧客

電子部品メーカー
半導体装置メーカー
金型メーカー



主要顧客

家電メーカー
金型メーカー



主要顧客

文具メーカー
玩具メーカー
医療メーカー
飲料容器メーカー
グローバル商社
金型メーカー

エンドユーザーのイメージ（例：自動車関連）

大多数のエンドユーザーは金型メーカー

自動車メーカー



ボディ・外装・シート・
コネクター・等々のメーカー



金型 メーカー

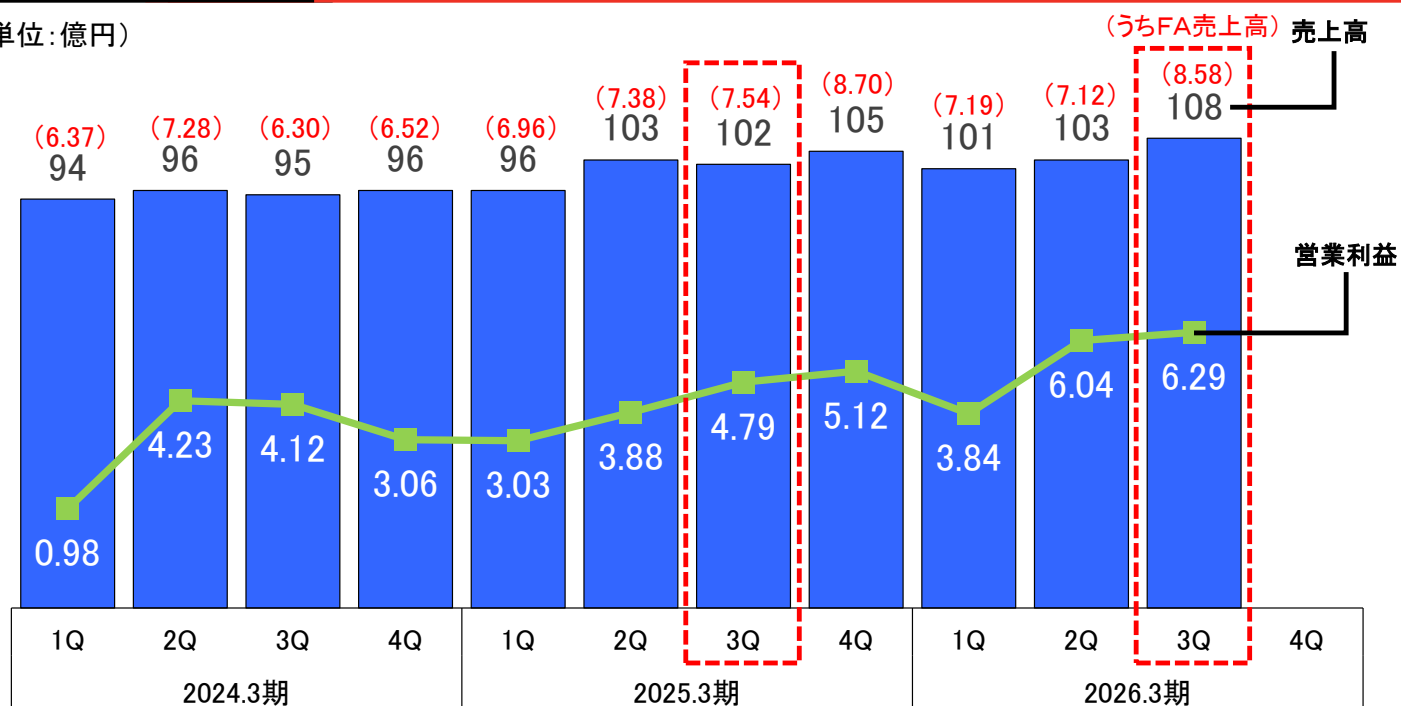


パンチグループ



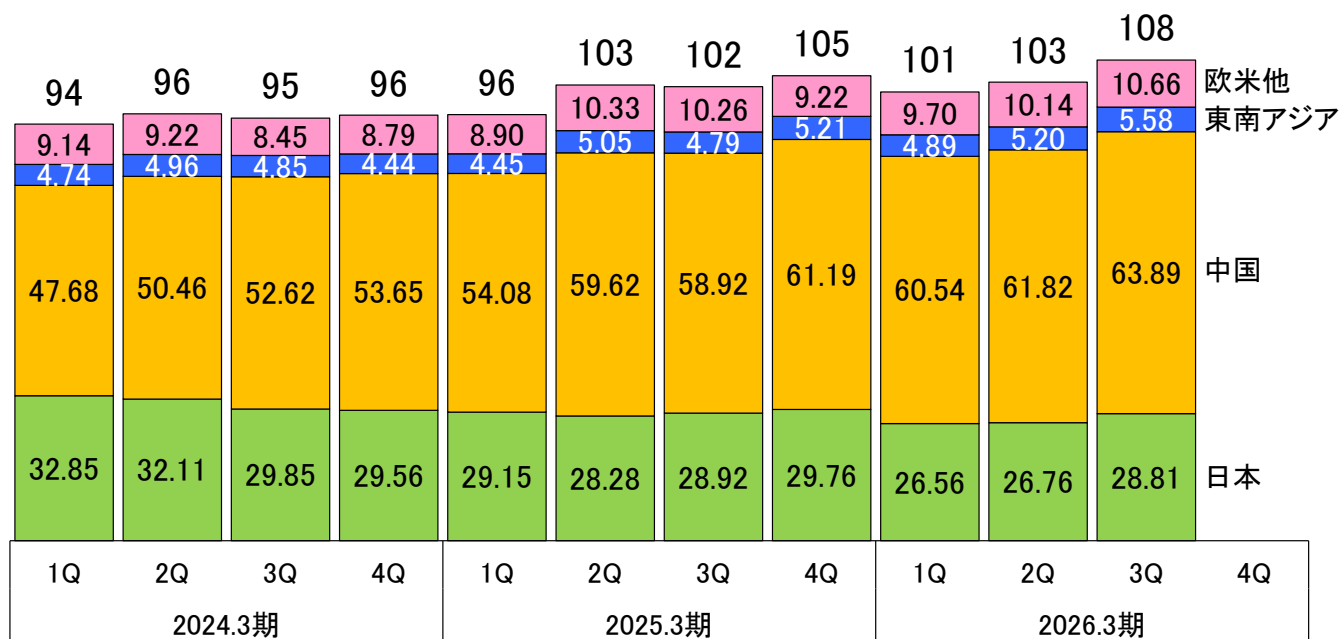
売上高と営業利益の推移

（単位：億円）



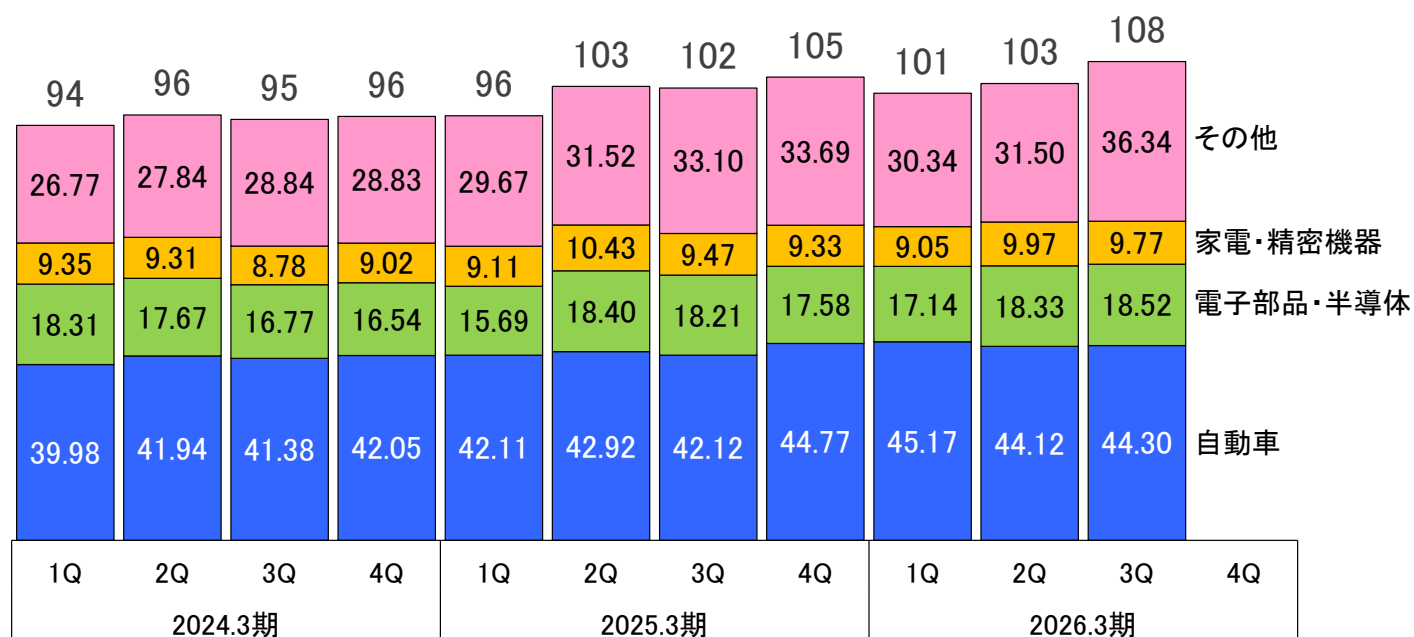
地域別売上高

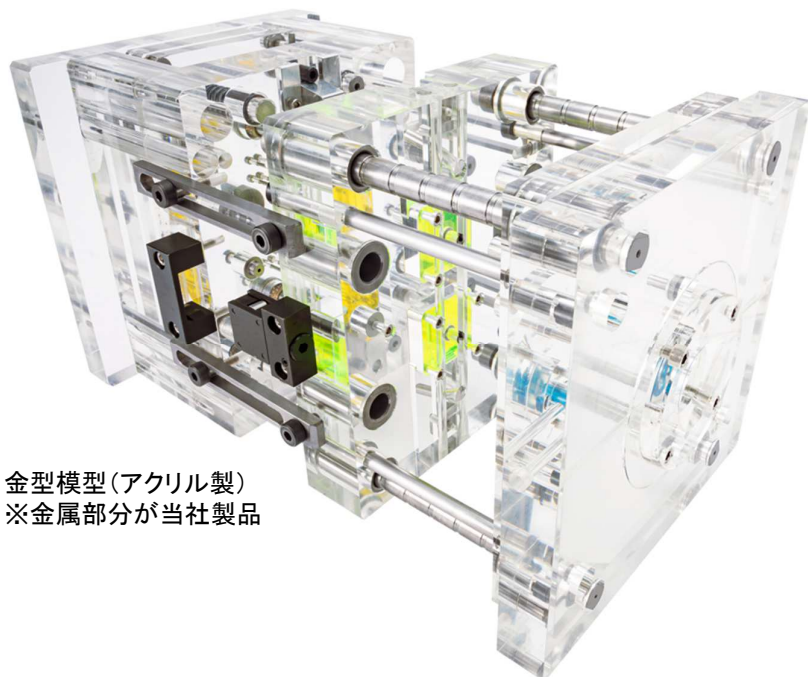
(単位: 億円)



業種別売上高

(単位: 億円)





金型模型(アクリル製)
※金属部分が当社製品

【IRに関するお問い合わせ先】 パンチ工業株式会社 コーポレート・コミュニケーション室 広報IR課 電話:03-5753-3130 e-mail:info-corp@punch.co.jp

【将来見通し等に関する注意事項】

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。
本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。
また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。